



## 歯科医・彌勒寺寛之の 視界良好!

## 第10回 インプラントのススメ④

前回に続き、今回は入れ歯の「噛む力」についてお話しします。

「ブリッジにすると、なぜ7年くらいで土台にした歯をダメにするとお思いますか？」

理由は明らかです。歯を削るからです。

ブリッジを作るには、土台にするために、両隣の歯を、健康な歯でも削らなければなりません。患者様の希望で仕方なく削ることがあるのですが、心の中ではいつも「もったいない」と思いながら削っています。もしブリッジの土台として使うことがなければ、その歯の寿命はあと20年、30年と延ばすことができたかもしれないのです。

歯の表面の層はとても硬く、「エナメル質」と呼ばれています。ヒトの体の中で最も硬い部分です。エナメル質は骨よりも硬く、鎧のように歯を守る役割があります。ブリッジにするためには、エナメル質も含めて歯の3分の1くらいを削らなければなりません。歯は当然もろくなります。さらに、削ったために刺激に対して過敏になり、痛みも感じやすくなります。痛みが出てくると、歯の神経をとる治療をしなければなりません。負担過重でグラグラしてくるかもしれません。そうなったときにはもう遅いのです。

あなたは、ブリッジを使っていることに慣れていませんか？ 実は今の状態に満足してしまうことが、最も危険なことです。

私は、「もっと早くから歯を大事にしていればよかった！」と後悔する患者様のお話を、毎日聞いています。このコラムを読んでいるあなたには、絶対そのような後悔をして欲しくないのです。ブリッジを使っている今の状態は決してずっとは続かないのです。

「知り合いのおじいちゃんはいれ歯で何でも食べられるそうです。ですから私も入れ歯にしてください」

この前来院された患者様がこう話しかけてきました。

そもそも何でも噛めるとはどういうことでしょうか。

「噛む」とは、食べ物を細かくする作業です。どれほどまで細かく噛み砕くかは人によって違います。つまり、「何でも食べられる」と話していたおじいちゃんは、実は、ほとんど丸飲みの状態かもしれないのです。

入れ歯で噛み砕く力は、天然の歯の6分の1にまで減少します。さらに骨が減り、歯ぐきが痩せ、合わない入れ歯を使うと、さらにその力は減少します。いくら食べられるといっても、入れ歯でりんごを丸かじりできる人が何人いるでしょうか。

入れ歯で食物を噛み砕き、細かくする力は天然の歯に比べるとゼロに近いといえるのです。

入れ歯について興味深い話があります。入れ歯を落ちにくくする「入れ歯安定剤」をご存知でしょうか？ その売り上げが1998年に80億円だったものが、2002年には100億円を超えたそうです。安定剤を使う人口が増えているというのは、それだけ多くの人が入れ歯に不満を持っている証拠です。

入れ歯使用者の9割以上が、使っている入れ歯に何かしらの不満を持っているといわれています。入れ歯にすることで噛む力が6分の1以下になると前述しましたが、噛めなくなることで引き起こす障害は、食事ができなくなるだけではないことが最近わかってきています。その驚きの事実とは、「噛めなくなると、痴呆になる確率が高くなる」というものです。

「入れ歯をつけるとボケるって本当ですか？」

次回は噛む力の脳への影響についてお話しします。



～著者プロフィール～

みろ歯科院長（2012年10月1日新規開院） 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）

住 所 宇都宮市中央2-4-8 T E L 0120-814-364 (URL) <http://tda86.com>

所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

